



Polaris news

【北高新聞 NO.202104】

「TULAY PROJECT」

フィリピンの子どもたちとの交流を通して相互理解を促進するプロジェクト
(2021.10.16)

認定NPO法人ICAN主催の「TULAY PROJECT」に参加しました。事前に1年次から学習しているSDGsに関連する、現在身近にある問題とその解決策に関する動画をグループごとに作成しました。当日は、北高校とICAN、フィリピンの路上の子どもたちの保護施設である「子どもの家」をオンラインで結び、それぞれが作成した動画を鑑賞したあと、意見交換を行いました。

フィリピンの子どもたちの動画では、子どもたちが直面している厳しい状況が見え、SDGsのゴールから遠い現状にいる子どもたちの過酷さに驚き、自分たちの行動や今できることは何かを改めて考えさせられました。



■生徒の感想より

- 現地の子どもたちのリアルな生活の話聞いて、たくさんことを学びました。
- 自分が想像していたよりも、フィリピンの路上の子どもたちの環境が厳しく、もっとしっかりと考えていく必要があると思いました。
- SDGsへの考え方が変わりました。今まではSDGsといわれると「未来」というイメージがあったけど、フィリピンの路上の子どもたちの現状を見て、「今」についても考える必要があるのだと思いました。
- 自分たちは、まだ子供のような感覚で、いつも誰かに頼っていました。でも、フィリピンの子どもたちは、自分たちがやらないと生きていけないという意識がありました。これからは自分で積極的に動けるように常に世界に目を向けていきたいです。
- あまりきれいとは言えない川に飛び込んでいるのが印象に残りました。
- 自分たちが日本にいて、行なった行動がフィリピンだけでなく世界へと繋がっていることを知りました。
- SDGsが2030年までに達成できるのか不安になりました。少しずつ達成に向けて行動するべきだと思ったので、この現状をもっと多くの人に知ってもらいたいと思いました。
- 自分が思ったよりも悲しい状態でした。道路の排水溝がゴミで埋まって、洪水になっているのが印象的でした。